

令和3年度 岩谷学園アーティスティックB 横浜美容専門学校
学校関係者評価委員会報告書
(令和3年4月～令和4年3月)

1. 学校関係者評価委員会実施要項

開催日時	令和4年5月23日(月) 16:00～17:10
開催場所	岩谷学園アーティスティックB 横浜美容専門学校 202教室
参加者	<p>【学校関係者評価委員】</p> <p>松野功明 有限会社サロンドボーテ グレース 森本チヅ子 株式会社ラ・ボーテ・アクアボン 鈴木義和 <保護者> 松本美子 <保護者> 最上千香 <卒業生> 我妻紗彩花 <卒業生> 鈴木弘文 <地域住民> 松本康二 <地域住民></p> <p>【教職員】</p> <p>鈴木政信 校長 宮田具 教務主任 石崎淳子 教育M G 古谷聖子 教育M G 清水美喜 教育M G 丸山一恵 教育M G 石井紀代子 本部 学生課 課長 手塚朋子 本部 学生課</p>
評価期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日
評価対象	ビューティースタイリスト科、トータルビューティー科
配布資料	<ul style="list-style-type: none">・実績報告・各種資格取得/就職状況報告・事業活動収支計算書・授業アンケート報告・学校自己点検・自己評価表報告・職業実践専門課程について・専門学校協会会報・外国人美容師育成事業制度概要・国家戦略特別区域外国人美容師育成事業実施要領・岩谷学園アーティスティックB 横浜美容専門学校組織図

■校長挨拶

校長の鈴木より学校関係評価委員会についての説明がなされ、委員会参加者についての紹介が行われた。

2. 令和3（2021）年度の学校事業概要報告

学校行事について
4月5日：入学式（参加者：新入生のみ 保護者列席なし）
4月27日：避難訓練（一時避難場所までの避難経路の確認）
5月19日：健康診断（健康状態の確認、疾病の早期発見、予防改善）
9月4日：作品発表会（今回は内部のみの実施）
3月11日：卒業式（参加者：卒業生のみ 保護者列席なし）
※2020年度入学生はコロナの影響で入学式翌日から休校となつたが、2021年度入学生については、行事を厳選したうえで、通常通り執り行うことができた。ただ、外に出向く行事はできなかつた。
教育交流事業について
企業連携
1月31日～2月3日：インターンシップ研修
※本来であれば美容院・サロンに赴くインターンシップだが、コロナの関係でそのような形態での実施が難しかつたので、きくや美粧堂様にご協力いただき、スタジオをお借りしてのインターンシップ研修を実施した。
在籍者と卒業者について
在籍者数
・ビューティースタイリスト科：72名（1年34名 2年38名）
・トータルビューティー科：51名（1年28名 2年23名）
※トータルビューティー科 2022年4月入学者は定員に迫る入学者数となつた。
退学率
・ビューティースタイリスト科：1年17.6% 2年生2.6%
・トータルビューティー科：1年17.9% 2年生4.3%
※学校全体で10.6%
※退学の主な理由は、進路変更、体調不良など。1年生の退学者は例年より多く出ることとなつた。
検定取得状況
・ビューティースタイリスト科：国家試験合格率97.4%。1名のみ学科不合格。今後もフォローしていく。
「ヘアケア/ヘッドスパ検定」「JNA ジェルネイル検定初級」合格率100%
「ビジネス能力 ジョブパス検定3級」合格率98.0%
「色彩活用パーソナルカラー検定3級」合格率94.6%
「ネイリスト JMEC 技能検定3級」合格率88.9%
※すべての検定結果が例年の学内平均合格率を上回つた。
・トータルビューティー科：「AJESTHE 認定エステティシャン上級」「JNEC ネイリスト技能検定2級」
「JNA ジェルネイル技能検定上級」「JNA ジェルネイル技能検定中級」合格率100%
「美肌検定」合格率96%
※AJESTHE 認定エステティシャン（上級）は、例年の学内合格率が平均80%台のところ、今回は100%を達成できた。
就職状況について

・ビューティースタイリスト科：就職率：100% 卒業者に占める就職者の割合：94.7%

※メイクを勉強したいと進学した学生：2名

※採用時期が早い印象で、年内にはほぼ進路が決定。その時点で決まっていない学生は、採用のフローが長く、結果が出ていない学生だった。

※おおむね学生の希望通りの就職先に決めることができていた。

・トータルビューティー科：就職率：100% 卒業者に占める就職者の割合：56.5%

※エステティシャンの求人社数は例年なみだが、採用人数は例年の半数以下であったため、当初の希望通りの就職先に決まらない学生がいた。

※ビューティーアドバイザーの求人は厳しく、求人は10月まで1社もなかった。求人がほぼなかったため、当初ビューティーアドバイザー希望だったが、進路変更をしてエステティシャンで就職した学生もいた。

※昨年に引き続きオンラインでの面接や試験が多い印象。

3. 企業項目ごとの学校関係者評価・意見等

令和3（2021）年度の自己点検評価報告をもとに、基準項目ごとに学校から説明がなされ、評価を行った。

評価項目		評価
1	教育理念・目標	<p>前年度と同様、学校の教育理念、目的、育成する人材像は明確で、全教員によく周知・理解されている印象である。</p> <p>ただ、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、来客実習を実施する回数が減少してしまったため、今後は可能な限り来客実習を実施したい。</p> <p>また、産学連携により、即戦力となる教育を適宜外部の見識者に情報収集の一環として実施することも改善していきたい。</p>
2	学校運営	<p>学校運営に関しては前年度同様に全般的に順調であり、学園や学校内の各種規則、規程やマニュアル等について、学園内のプロジェクト委員会等を中心に策定、改訂等が継続的に実施されている。また、情報システムによる業務効率化も進めており、一定の成果を上げていると評価できる。</p> <p>学生が自身の将来像をより具体的に描いていけるような工夫をしていくとともに、就職後の定着率UPのための教育への落とみが今後の課題である。</p>

評価項目		評価
3	教育活動	<p>教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等の策定や、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラム作成などは、職業教育に対する外部関係者からの評価も取り入れ、適切な評価を受けていることからも適切だと判断できる。</p> <p>产学連携授業としては、技術向上のみならず実際の業務に有益な実践的なカリキュラム（セミナーの実施等）が積極的に実施されており、学生が多方面から美容に関する興味・関心を持てるよう工夫されている点は大いに評価に値する。</p> <p>教員の資質向上のための外部研修参加や自己研鑽についても計画的に対応しているが、コロナの影響や授業の調整が取れずに参加できないこともあったため、今後はオンラインの研修参加を増やしたり、計画的に上司と相談して授業変更を行うなどして、積極的に研修に参加していく体制を整備していくことが必要である。</p>
4	学修成果	<p>各種資格取得状況については、上位資格などにも積極的にチャレンジする学生が増えており、例年の学内合格率を上回る結果が出ている資格も多く出ている。引き続き意欲的に取り組んでいってほしい。</p> <p>就職率は担任、学生課、企業との連携により高い数値を維持しているが、美容部員など求人数が減少している求人もあるため、引き続き手厚いサポートが必要である。</p> <p>卒業生の状況が時間の経過とともに把握しづらくなる状況にあるため、今後は卒業生の情報把握のため、同窓会などの運営も主体的に運営する。</p>
5	学生支援	<p>今回退学者を例年より多く出すことになってしまったため、今後は入学前と入学後のミスマッチを少なくするため、入学後にはいつでも相談や面談ができる環境を作ることに努める。</p> <p>また、保護者との適切な連携を図るため、在籍する学生の保護者のみがアクセスできる保護者向けのインターネットサイトを公開すべく作成中である。</p>
6	教育環境	<p>ネット環境については更なるWi-Fi設備の徹底。就職活動専用のパソコンとWi-Fi設定などの環境を整えている。</p> <p>校内設備としては、今後エステ設備の入れ替えや、美容のシャンプー台変更を検討。計画的に改善を進めていきたい。</p> <p>また、学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等についての教育体制については、学生が一定期間1つのサロンに行くような集中型产学連携教育を構築していきたい。</p>
7	学生の受け入れ募集	<p>学生募集活動は協定等を遵守し、公正に行われていると判断する。</p> <p>今年度はトータルビューティー科も定員に迫る入学者数となり、学校と入試広報課との連携による学生募集の努力の成果が出ていると感じる。</p> <p>ビューティースタイリスト科については、定員補充ののちに入学辞退者が出了した場合の追加募集の方法を検討する必要がある。関係する諸官庁に相談しながら適切に進めていきたい。</p>

評価項目		評価
8	財務	収入実績は予算を大幅に上回り、支出も抑えられた。学校の財務基盤は現時点では安定していると判断できる。 現在の校舎の借入金を完済できたが、校舎の新築から 10 年が経過したため、今後は計画的に施設のメンテナンスを行っていく必要がある。国や県の補助金を利用することや低金利の借入により実施することも検討する。
9	法令等の遵守	法令、規則、規程等に従い、コンプライアンスを重視し、日々業務を遂行していると判断できる。個人情報の保護、肖像権・著作権の取り扱いについては、教職員、学生を対象に研修や啓蒙活動を継続していることがわかる。学校自己点検・評価も H P 上で公開しており、積極的に情報公開を行っている様子が窺える。
10	社会貢献・地域貢献	学校は地域に根差したものでなければならず、ゆえに地域貢献・社会貢献は学校が担う社会的使命ともいえる普遍的なものである。これは岩谷学園の建学の精神に相通するものである。これまで行ってきた高齢者施設を対象とした美容ボランティア活動は、新型コロナウイルス感染拡大により中止となっているが、今後感染リスクが落ち着いたら再開する。 また、高校生を対象にした「仕事の学び場」は今後も継続していく。
11	国際交流	美容分野での就職先の確保は引き続き困難ではあるが、東京特区では、5 年間美容師の就労が可能となったり、少しずつ変化している。日本の人口減少は免れず今後は留学生の受け入れをもっと拡大し、学校生活の支援や就職先についても学校として整備していく必要がある。

4. 総評

学校自己点検・評価の結果を基に、学校関係者評価委員会として、岩谷学園アーティスティック B 横浜美容専門学校の学校評価は概ね「合格」と判断・評価する。

少子高齢化が進んでおり、18 歳人口がますます減少しているなかで、入学から就職へ向けて関係部署が連携して一貫した指導を行っていること、教育ストーリーの構築・見直し・更新を常に実施している様子が明確になっていることは高く評価できる。連携企業など外部からの情報を積極的に取り入れ、カリキュラムへの反映の模索も学校全体で取り組むことで、教育目標や理念の個々人への定着が実現していると思われる。

学生一人一人が目標をもって学生生活を送れるよう、また、就労後も継続して社会に貢献していくよう、支援を継続していってほしい。

教育信条である「職業人教育」を進めるにあたり、ボランティア等の地域貢献・社会貢献を経験できるような体験も重要なかと思う。どのような形で実現できるのか、さらに研究を重ねて形にしてほしい。そして、社会のニーズを的確にとらえ、社会が求める人材を育成する、専門学校としての使命を果たしていかれることを期待する。